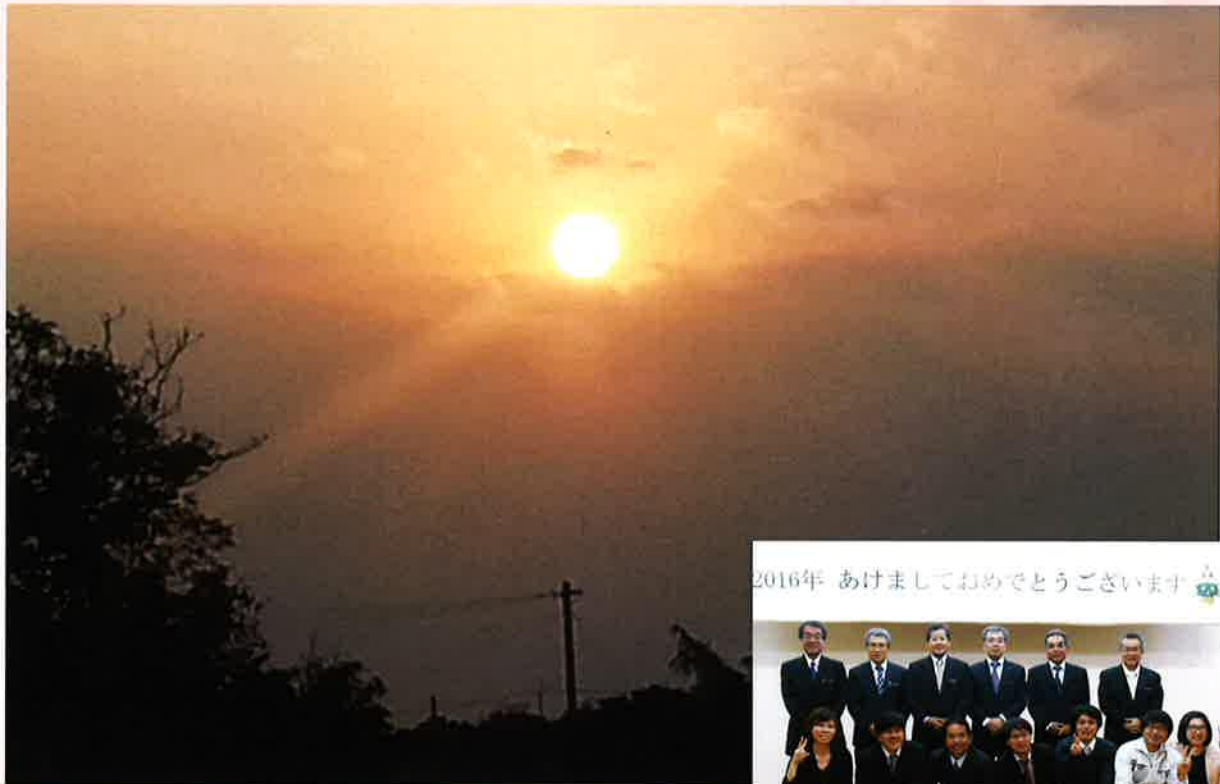


みどり 水土里ネットおきなわ

謹賀新年



平成28年 元旦 初日の出(南城市知念)



申年の皆さんと土改連幹部

平成28年が輝かしい年でありますように!!

CONTENTS

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| ▪ 謹賀新年..... 1 | ▪ 「おきなわ農業農村の集い」開催..... 7 |
| ▪ 新年のごあいさつ(水土里ネットおきなわ会長)・2 | ▪ 換地事務新規担当者研修会..... 8 |
| ▪ 年頭のごあいさつ(沖縄総合事務局長)..... 3 | ▪ 職員研修会の開催(全5回)..... 8 |
| ▪ 年頭のあいさつ(沖縄県知事)..... 4 | ▪ 地域ボランティア清掃活動への参加..... 9 |
| ▪ 新年に当たって(全国水土里ネット会長)..... 5 | ▪ 多面的機能支払交付金活動研修会の開催..... 9 |
| ▪ 年頭挨拶(全国水土里ネット会長会議顧問)..... 6 | ▪ 水土里情報システムだより..... 9 |
| ▪ 平成27年度第2回理事会開催..... 7 | ▪ 第38回全国土地改良大会青森大会開催..... 10 |
| ▪ 平成27年度第5回監事会開催..... 7 | ▪ 土改連だより..... 10 |



新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

会員及び農業農村整備事業の関係者の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平素より農業農村整備事業の推進並びに本会の運営につきましては、格別なるご理解、ご協力を賜り心から厚くお礼申し上げます。

昨年は本県におきましても、台風や干ばつ等、自然災害の多く発生した一年でありました。特に離島におきましては、甚大な被害を受けました。更に離島県であるという地理的制約、市場の遠隔性など、沖縄県の農業を取りまく環境は、ますます厳しさを増しています。

このような中、昨年10月に開催となりました「おきなわ農業農村整備の集い」において、農業農村整備事業の重要性を広くアピールできましたことは、大変意義深いものであったと思います。

さて、昨年はTPPが大筋合意されました。政府は「農政新時代」として、「攻めの農林水産業」として、農政の舵を大きく切りました。本会も沖縄県と連携しながら国の施策に呼応し、円滑な実施が行えるよう努力する所存であります。

当会では、水土里情報システムで、土地改良施設やさまざまな農地情報の管理・分析を支援するとともに、端末モバイルや水土里クラウドサービスを本格稼働しているところです。本システムの更なる拡充を図ることで、国や県の施策に大きく寄与できるものと考えております。

上記を踏まえ、本会は会員の皆様の声を聴き、連携し昨年以上に切磋琢磨し、本県の農業農村整備事業の推進のため、より高度で洗練された技術集団となるよう、積極的に取り組んで参りますので、関係機関の皆様におかれましては、なお一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、会員の皆様をはじめ関係各位のご健勝とますますのご活躍を記念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

沖縄県土地改良事業団体連合会
会長 古謝景春

年頭のあいさつ



平成28年の新春を迎えるに当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。
水土里ネットおきなわの会員及び役職員の皆様方には、日頃から農業農村整備事業の推進に御理解と御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

昨年、度重なる台風や干ばつに見舞われたにもかかわらず、関係各位におかれましては、適切な農業用水の管理やほ場へのかん水などに御尽力されましたことに対し、心から敬意を表します。

こうした厳しい自然条件に加え、我が国の農業・農村を取り巻く現状は、農業者の高齢化や耕作放棄地の増加等、速やかに対応しなければならない課題が山積しております。

また、昨年10月にはTPP協定が大筋合意されたところであり、政府として「総合的なTPP関連政策大綱」を決定し、特に農林水産分野では、「農政新時代」を掲げて、攻めの農林水産業への転換と経営安定・安定供給のための備えを万全とするための措置を責任を持って講じていくこととしています。

沖縄総合事務局では、今後、平成27年度補正予算を中心としたTPP対策について、県内で説明会を開催する予定です。さらに、現場の皆様へ直接ご説明に上がることも考えています。引き続き、TPPの影響による皆様の不安を払拭するとともに、成長産業化に取り組む生産者の皆様の後押しし、夢と希望の持てる沖縄農業の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

さて、沖縄の農業は、昭和47年の本土復帰以降、農業用ダムの建設等かんがい排水施設の整備を積極的に進めた結果、干害が多かった状況を脱却し、亜熱帯地域の温暖な気候を活かしたブランド力を有する多様な農産物の供給基地へと姿を変えました。特に離島地域においては、農業は基幹産業として、地域振興や国土保全に大きく貢献しております。

現在、沖縄では、「伊江地区」、「宮古伊良部地区」及び「石垣島地区」の3地区で国営土地改良事業を実施しております。「伊江地区」では、地下ダム等の工事を平成28年度の完成に向けて進めており、また、「宮古伊良部地区」では、昨年1月に開通した伊良部大橋の用水路工事や仲原地下ダム、ファームポンド等の工事を進めているところです。さらに「石垣島地区」では、昨年4月に農業水利事業所を開設し、老朽化した施設の改修や石垣島北部新規受益地への送水に向けた事業に本格着手したところです。今後とも農地中間管理事業や多面的機能支払い等をはじめとした各種重要施策を推進するとともに、沖縄農業の振興を図る上で最も重要なインフラである水源整備を進め、若者たちが希望を持てる「強い農業」と「美しく活力ある農村」の創出に向けて取り組んでまいりますので、関係各位の一層の御支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

結びといたしまして、県内の農業・農村が更なる発展・飛躍を遂げますよう期待申し上げますとともに、水土里ネットおきなわをはじめ、沖縄県内の農業農村整備事業に携わっておられます皆様の御健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

内閣府沖縄総合事務局長
久保田 治



年頭のあいさつ

はいさい、ぐすーよーちゅーうかなびら。
新年あけましておめでとうございます。

水土里ネットおきなわの会員並びに役職員の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、平素より沖縄県の農業農村整備事業の推進につきまして御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年は、新たな「食料・農業・農村基本計画」のスタートに加え、「T P P（環太平洋パートナーシップ）協定」が大筋合意され、食料・農業・農村をめぐる情勢が大きく変化した年でありました。一方、国営かんがい排水事業石垣島地区が本格的に着工され、農業用水の安定供給の確保により、石垣島の特色を生かした農業のさらなる発展・向上に大きく寄与することが期待されております。

沖縄県の農業・農村を取り巻く環境は、T P P への対応や、農業従事者の減少、高齢化の進行に加え、台風や干ばつなどによる自然災害の発生など依然として厳しいものがあります。

平成28年度は沖縄21世紀ビジョン基本計画の中間地点となります。これまでの成果を踏まえながら、ビジョンで掲げる「希望と活力にあふれる豊かな島」の実現のため、地域特性に応じた新たな農業用水源やかんがい施設、防風林などの施設を整備し、特色ある農業の振興を推進してまいります。

さらに、農山漁村の多面的機能の発揮及び利活用に向け、地域の魅力ある素材の発掘や地域特性を生かしたツーリズムの推進、生産者と消費者や農山漁村と都市を結ぶコーディネーター等の人材育成に取り組んでまいります。

水土里ネットおきなわにおかれましても、農業農村整備事業の推進に向け、なお一層の事業展開と会員に対する技術的な指導や支援等の体制の充実を図り、本県の農業農村整備に御尽力されますことをお願い申し上げます。

結びに、本年も水土里ネットおきなわ及び会員の皆様にとって実り多い躍進の年になり、より一層御活躍されることを祈念いたしまして、年頭のあいさつといたします。

くとうしん ゆたさるぐとう うにげーさびら。

（今年もよろしくお願ひいたします。）

平成28年1月1日
沖縄県知事 翁長 雄志

新年に当たって



平成二十八年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進にご尽力をいただいている皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年、当会の会長に就任しましてから、関係者の皆様のご支援を受けながら、これまで事業の推進に尽力して参りました。とりわけ、会長就任時には民主党政権時代に七割近く削減された状況であった予算を、まずは復活させようと、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し、悲鳴が上がっておりまして、一日も早く予算確保を訴える声が届いておりました。このため「闘う土地改良」を旗印に、真剣な取り組みを訴えて参りました。おかげさまで、昨年末には平成二十七年度補正予算と同二十八年度予算とで総額四、八一〇億円を政府予算編成案において確保することができました。

私は、皆様の要望を実現するためには、いつまでも下を向いているのではなく、本会として具体的な行動を起こすことが重要である旨申し上げ、次期参議院選挙には候補者を打ち立てて、明確な意思を表明することが重要であると申しました。おかげさまで、農林水産省から進藤金日子君が現職課長を辞して立候補することとなりました。彼は秋田県の農村出身で、土地改良に熱い思いを持っており、是非、土地改良のために頑張りたいと積極的に活動してくれています。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

さらには、昨年TPP交渉が大筋合意されたことを受けて、「総合的なTPP関連政策大綱」が決定されましたが、私は農業農村の振興に、支障を来さないように努力をしていかなければならないと思っております。

我々水土里ネット関係者としましては、このような現状をしっかりと受け止め、積極的に役割を果たしていくことが重要と考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力も必要と考えます。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開するべく全国各地で志の高い取り組みが見られるようになってきております。

土地改良は、農業農村の整備や振興を通じて国土を維持し、発展させることを目的としております。そのためには、自分達の生活は必ずや自らが守り発展させていくという気構えが不可欠です。それを、我々の先人達が時々の時代背景の中で繰り返し最大限努めてきたことだと思うのです。現代に生きる我々が手をこまねていることは決して許されることではありません。私は全国の土地改良関係者の皆様のご協力をいただきながら、ひき続き予算の獲得や参議院選挙の勝利に向け真剣に闘う決意を新たにいたしました。

本日、輝かしい年の初めに当たり、本年が全国の皆様にとってよき年でありますように、ご健勝とご発展を祈念いたしまして、私の新年のご挨拶といたします。

全国土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博



“闘う土地改良” の先頭に立って

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えることと、心よりお慶び申し上げます。

私は、昨春、新しく全国土地改良事業団体連合会会長に就任された二階俊博先生が提唱された「闘う土地改良」に込められた真義に感銘し、また触発され、政治活動の途を志す決意を固め、昭和61年に入省以来、29年間勤めてきた農林水産省を昨年6月、中山間地域振興課長を最後に辞職しました。

その後、7月29日に都道府県土地改良事業団体連合会会長会議(全国水土里ネット会長会議)顧問を仰せつかり、全国各地を回り、その実情を聞かせて頂きました。移動した距離は約30万km、日本の農業水路の総延長約40万km(地球10周分)の4分の3に達しました。全国を巡回する中で、我が国の国土には人間の体でいうと動脈と静脈にあたる農業用水路・排水路が隅々まで張り巡らされ、肉体にあたる450万haの農地と一体になって国民の食料を支えており、多面的機能の適切な発揮を通じて、まさに日本の国土を支えていることを改めて実感した次第です。

そして、様々な課題も聞かせて頂きました。農業・農村の現場で聞く声は本当に切実で、心に響きました。過去・現在・将来とも国民の食料を支える農地と水、それを可能としている土地改良は「日本の命綱」であります。その命綱が切れそうになっていることに強い危機感を禁じ得ません。

全国各地を回り始めてから約4か月経た時点で、私なりに全国の声を集約し、全国水土里ネット会長会議に報告しました。そして、その報告した内容を私に課せられた5つの使命として承り、その使命を果たすため全身全霊で取り組んでまいります。

- 1.土地改良の予算確保に全力
- 2.日本型直接支払制度の充実に全力
- 3.災害に強い農山漁村づくりに全力
- 4.自然豊かな美しい農山漁村の継承に全力
- 5.農業と農山漁村への国民の理解に全力

この「5つの全力」を通じて、「安全で安心な食」、「大切な農地と水」、「美しい農山漁村」、この3つを守り抜くことを約束します。

最後に、今年は、土地改良にとって剣ヶ峰と言ってよい程の大きな節目の年となります。私は、幅広い国民の皆さんのご理解と土地改良に関わる私たちの結束を源泉として、「闘う土地改良」の先頭に立って全力疾走することを改めてお誓いします。

本年が皆様お一人おひとりにとって良き年となることを祈念し、私の年頭のご挨拶と致します。

全国水土里ネット会長会議
顧問 進藤 かねひこ

平成27年度第2回理事会開催

平成27年10月14日(水)午後2時より、当会理事11名の内、9名の出席を得て、平成27年度第2回理事会が開催されました。古謝景春会長(南城市長)を議長として議案は、第1号議案平成26年度事業報告、一般会計・特別会計収入支出決算及び財産目録の承認(監査報告及び意見報告を大屋監事が説明)、第2号議案平成27年度一般会計収入支出補正予算(案)、第3号議案(登録) 沖縄県土地改良事業団体連合会公印取扱規程の一部改正(案)、第4号議案(廃止) 沖縄県土地改良事業団体連合会公印取扱規程の一部改正(案)が提案され、すべて原案通り可決決定されました。

平成27年度第5回監事会開催

平成27年11月18日(水)午後4時30分より、当会監事3名の内、2名の出席を得て、監事会が開催されました。監事会は、平成27年度中間決算監査の監査結果の報告と意見についての内容で、玉城代表監事より概ね良好との説明でした。

「おきなわ農業農村整備の集い」開催

平成27年10月23日(金)に「おきなわ農業農村整備の集い」が開催され、本島離島より約150名の農業農村整備関係者が一堂に結集しました。

集いでは、前農林水産省 農村振興局次長の小林祐一氏より、「農業農村整備について」と題して講演を行って頂きました。最後に「平成28年度農業農村整備予算の確保に関する要望書」を満場一致で採択し、盛会裡に終了しました。



おきなわ農業農村の集いの様子



おきなわ農業農村の集いガンバロー三唱

換地事務新規担当者研修会

平成27年度換地事務新規担当者研修会が9月29日～10月2日までの4日間の日程で土地改良会館4階会議室で開催され、県、市町村、の換地事務を初めて担当する職員、土地改良区の職員、役員や農地中間管理機構の職員など総勢30名が受講しました。

研修会内容は、土地改良法、換地理論、農地中間管理事業について、など換地事務を行う上で必要な講義内容となっております。

また、研修会3日目には読谷村にて、長浜ダム、県営読谷中部地区、読谷村先進農業支援センターの現地視察を行い、参加者は講義だけでは感じ取れない事業の効果や重要性を学ぶことができ、本研修会を終えることができました。



研修会の受講風景



研修会の質疑風景



読谷村 長浜ダムにおける現地研修

職員研修会の開催(全5回)

本連合会の職員を対象にした研修会が全5回の日程で開催されました。

本研修会は、各職員が担当している業務を題材に発表する場となっており、お互いの業務内容を把握する貴重な機会となっております。

また、各回とも外部講師を招き、日頃の業務では得ることの出来ない内容を題材とした講習も行っています。

どの研修会においても、参加した職員は真剣な表情で講習を受ける様子が随所で見受けられ、有意義な研修会となりました。



第1回 会員支援課矢尾田班長による発表の様子



第2回 農村計画課黒島主任による発表の様子



第3回 外部講師による研修の様子



第4回 知念武専務理事による講話の様子



第5回 外部講師による研修の様子

外部講師による講演内容一覧 ～貴重なご講演ありがとうございました。～

	演 題	講 師
第1回	皆と一緒に「ちゃーがんじゅー！」	南風原町役場保健福祉課 保健師 眞謝 雅代 氏 管理栄養士 山田 美紀 氏
第2回	事故防止対策について	与那原警察署 交通課 當間 淳史 氏
第3回	伊良部大橋の特徴 -100年の耐久性確保を目指して-	沖縄県宮古土木事務所道路整備班 班長 奥間 正博 氏
第4回	現場の生態系に配慮した安全対策	おきなわワールド 株式会社南都取締役、南都酒造所工場長 我那覇 生剛 氏
第5回	労務災害・事故に対応するための救命講習	東部消防本部職員の皆様

多面的機能支払交付金による 地域ボランティア清掃活動への参加

平成27年11月1日(日)、糸満市座波地区での「多面的機能支払交付金活動」が実施されました。多面的機能支払交付金は、地域住民が一丸となって地域の農業・農村環境を維持していくことを目的にする活動を支援するものです。

当日は、農家だけでなく、自治会、中学校、さらには土木事業協会からも参加し、総勢200人以上の活動となり、土地改良事業団体連合会からは8名が参加しました。



ボランティア清掃活動の様子

最後は皆で集合写真を撮りました！

平成27年度多面的機能支払交付金 活動研修会の開催

平成27年12月15日(火)に「平成27年度多面的機能支払交付金活動研修会」を開催しました。第一部では、沖縄総合事務局、沖縄県の担当の方から多面的機能支払交付金制度による活動や報告書等の書類作成についての説明がありました。

続く第二部の実践編では、ワークショップ等を利用して地域の意見を生かす活動がこれからの多面的機能支払交付金活動に有効であることの説明後、参加者を8つのグループに分けてワークショップを実践して頂きました。



「多面的機能支払交付金による地域活動にキャッチフレーズをつける」という題でワークショップを実践する様子

水土里情報システムだより

水土里情報システム説明会及び事例紹介

平成27年11月6日(金)に水土里情報企画班主催で「水土里情報説明会および事例紹介」を開催いたしました(土地改良区・市町村会員の皆様、国、県、農業団体の83名参加)。本説明会の目的は、地図情報及び農地情報を整備し、農業者等が相互に利用できるようにすることにより農地の有効利用の促進や農業の持続的な発展及び農村の振興等を目的として活動を支援します。

「課金運用」・「勉強会及び操作説明会」スタート！

平成28年4月から、会員皆様へ提供するデータの質の向上・更新(オルソ画像・地籍データ等)及び支援を行う目的で課金運用を開始します。

新クラウドの運用開始に伴い、水土里情報システムの利用を希望される団体におかれましては、平成28年度から水土里情報システム利用協定書の締結後に使用許諾とします。

尚、平成28年3月までは、運用使用期間として、無償にて提供させて頂いております。

利用料金スタート御案内につきましては、平成28年2月よりホームページにて掲載致します。

また、平成28年1月から水土里情報拡充及び会員皆様への支援を行う目的で『勉強会及び操作説明会』をスタートします。講習内容は「①水土里クラウド②タブレット③地図情報システム(GIS)、の概要及び操作説明について、④その他のシステムについて」とし、募集を随時行っております。

詳細については、水土里ネットおきなわのホームページでお知らせしておりますので、是非ご覧ください。



水土里情報システムの概要を説明中

第38回全国土地改良大会青森大会開催

「土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く」

平成27年10月15日に青森県青森市の新青森県総合運動公園(マエダアリーナ)において、第38回全国土地改良大会が開催されました。

この大会は、農業農村整備に携わる全国の関係者が一堂に会し、「農業・農村の重要性」と、それを支える「農業農村整備事業の役割」を広く国民にアピールするとともに、新たな農業の展開方向に即して、改めて農業農村整備の使命を再認識し、関係者が総力をあげて我が国の農業・農村をさらに発展させることを目的に開催されました。

全国各地から土地改良関係者約3,500名が参加し、式典は、開催地である水土里ネット青森の野上憲幸会長の挨拶で始まり、その後、土地改良事業功労者表彰が行われ、農林水産大臣表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰45名が表彰されました。本県からは、前恩納村長の志喜屋文康氏が農村振興局長表彰を受賞、今帰仁村土地改良区の大城隆徳氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されました。



前恩納村長 志喜屋文康氏



今帰仁村土地改良区 大城隆徳氏



第38回全国土地改良青森大会時の集合写真

上改連だより

本会は、昭和42年3月22日「琉球土地改良事業団体連合会」として設立認可され、その後、昭和47年(本土復帰)に「沖縄県土地改良事業団体連合会」として改名され現在に至り、平成29年3月21日に設立50周年を迎えることとなっております。

本会では、設立50周年を迎えるに当たり記念式典開催並びに記念誌発刊事業に取り組んでおります。記念式典並びに記念誌編集に当たりましては、関係者皆様のご指導ご協力をよろしくお願い致します。

発行所:沖縄県土地改良事業団体連合会
〒901-1112 南風原町字本部453番地3
土地改良会館内
TEL 098-888-4511/FAX 098-835-6070
発行人:知念 武
<http://www.dokairen-okinawa.jp>

宮古支所
〒906-0012 宮古島市平良字西里1440-1
TEL 0980-72-8697/FAX 0980-74-2111
八重山支所
〒907-0004 沖縄県石垣市字登野城1263-1
TEL 0980-82-6070/FAX 0980-84-1089